

花喰うて風に流れて鳥の恋

山田真砂年

「稲」七月号より。上五の「花喰うて」は花喰い鳥の連想から思いつく人は多いと思えるが、中七の「風に流れて」の措辞は、熟練の観察眼が結実した把握で、鳥の恋の実態を見事に捉えて揺るがない。